



主イエスのまなざし、ペトロの涙

ペトロは、「あなたの言うことは分からない」と言った。まだこう言い終わらないうちに、突然鶏が鳴いた。主は振り向いてペトロを見つめられた。ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。

（ルカによる福音書22章60－62節）

まつ うら おさむ
松 浦 治

人々に捕えられ大祭司の家に連れていかれた主イエスに、遠く離れて従っていたペトロが、中庭で焚き火に照らされて座っていると、ある女中が「じっと見つめ」ますが、この動詞は疑いなり、探るような目で見るという意味があります。そのような目で見つめられながら、「この人も一緒にいました」と指摘されると、ペトロは「わたしはあの人を知らない」と、主イエスを否定します。一度目です。

次に、ほかの人がペトロを「見て」、「お前もあの連中の仲間だ」と指摘しますが、この「見て」は、吟味する、調査するというような意味の言葉です。この追及に、主イエスとの関わりを改めて否定をした一時間後、三度目の否定の言葉が終わらないうちに、突然鶏が鳴きだしました。すると、振り向かれた主イエスが、ペトロを「見つめられた」と書かれています。

しかし、この時の主イエスのまなざしには、先の二人とは違って、すべてを見通す神の子の権威とともに、深い憐れみと愛がありました。「見つめられた」という動詞は、女の人「じっと見つめ」やほかの人の「見る」とは違う、熟視する、注視するというような意味の言葉だからです。

このような主のまなざしで「見つめられた」ペトロは、外に出て激しく泣いたと書かれています。このときのペトロの涙は、彼の孤独で、傷ついた、いたたまれない内心を、鮮明に表しているといえるでしょう。過去の主イエスとの繋がりの一切を否定してしまう自らの弱さや罪深さに対する痛恨の思い、悔しさ、恥ずかしさを痛感せずにはいられなかったはずだからです。

しかし、ペトロが主イエスのまなざしに込められた本当の意味を理解するには、十字架につけられ復活された主とお会いするまで待たなければなりません。復活の主にお会いしてはじめて、「ペトロよ、お前の泣くのはよくわかる。しかし、泣き続けることはないのだ。わたしはお前のその罪深さ、弱さのためにこれから十字架につけられるのだから」という主のまなざしに込められた愛の御心と、自らの罪が赦されたことを、はっきりと知ることができたことでしょう。

わたしたちが遣わされている日本の社会は、主イエスに敵対し、主を信じるわたしたちを軽蔑し、揶揄し、疑い、詰問するようなまなざしが満ち満ちているところです。そして、「じっと見つめ」られ、「見ら」れているうちに、ペトロほどあからさまではないにしても主イエスを否定し、主に従って生きていることを後悔することがないとは言えないでしょう。

しかし大切なものをいつ裏切るか分からない、弱いわたしたちだからこそ、主の日ごとの礼拝に招かれているのです。そして、臨在してくださっている十字架と復活の主イエス・キリストのまなざしに見つめられ、自分自身を省み、主イエスに従い続ける者とされてもいるのです。

この一年も、教会は多くの試みと困難に囲まれるに違いありません。しかし、どんなときでも、主の変わらない愛のまなざしに励まされ、強められていることを信じ、感謝し、主に従って歩んでまいりたいと思います。

（出雲今市教会牧師）

説教	主イエスのまなざし、ペトロの涙	松浦 治	1
教会の課題	「タビタの会」より	松田 真二	2
旧約聖書に聴く	現代に何を語るか ダニエル書(1)	古賀 清敬	3
教会、この地とともに⑩	久留米教会		
主をたたえよ		森 ちづ子	4
書評	『わたしの家族の明治日本』	持田 克己	5
こいのにあ	恵みの「北海道中会信徒修養会2018」		
		池田 明美	6
こいのにあ	取り壊した壁の先にある希望	新畑 信	6
栗川富雄先生追悼文			
ここに、一人の伝道者がいた		三瓶 長寿	7
教会ニュース			7
大会諸委員一覧	教会ニュース		8